



# 新たな一步を

上高井教育会理事長 原田武夫



三月十日  
一日の大震災では、死者の数、被災した

人数、面積など私たちが今まで経験したことのない未曾有の被害の大きさに、自然の力の怖さを感じざるを得ません。中でも、今なお続いている福島原発の放射能による汚染は、遠く離れたこの地においても不安は尽きません。中部電力は浜岡原発のすべての原子炉を停止し、私たちの生活にも大きな影響が出始めています。

私たちの生活を便利に、そして快適にしてきた電力、その多くを原子力に頼っていた現実。豊かさの代償としての福島原発の事故。そのような中で、

## 第214号

発行所 上高井教育会  
発行人 上高井教育会理事長 原田武夫  
編集人 会報編集委員 長一社  
印刷所 須坂新聞社

断力・表現力等を相互に関連させ、融合させながら伸ばしてこそ、変化の激しい二十一世紀を担う子どもたちを育てていくことになるのです。

教育を取り巻く大きな流れの中で、時流に面々と対峙するのみでなく、不易なるものもしっかり見定めながら我々自身の内からの教育改革を進めていかなければなりません。

上高井教育会では今年から中心講師に信州大学教育学部の伏木久始先生をお迎えしての研究がスタートします。研究テーマに「子どもと共に創る授業のあり方」を据えて「子どもの言動や考え方から、子どもの内面にある学びをどうとらえるか」「とらえた子どもの姿をどう授業に生かすか」といったことを視点に、「学ぶ側の立場」に立った授業のあり方を研究していくこととなります。詳しいことは教育会総会の伏木先生のご講演のとおりですが、この考え方は信州教育の本質

にも重なるものです。最後になりますが、上高井教育会の公益法人化について触れておきたいと思えます。上高井教育会は「社団法人上高井教育会」として社団法人格を取得しています。ところが、平成二十年十二月一日の民法の改正により、社団法人は特例民法法人となり、平成二十五年十一月三十日までには公益社団法人あるいは一般社団法人へ移行しなければなりません。信濃教育会は今年四月、公益法人として出発しましたが、本会は現時点で一般社団法人としての出発をめざそうと考えています。これから二年の間に移行認可を得なければなりません。代議員会等で本会のめざす方向についてお示ししながらお願いするようにいたします。

上高井教育会がこれからますます発展していけるよう、会員の皆様の今まで以上の主体的な参加を期待します。

(栗方丘小)



## 教育会だより

- 4・1 選挙公示(役員選挙)
- 4・7 第1回代議員会第3回選挙管理委員会教育会役員選挙(正副理事長、理事、監事)
- 4・8 第4回選挙管理委員会
- 4・11 第1回理事会
- 4・15 平成22年度会計監査会
- 4・19 第5回選挙管理委員会
- 4・21 第2回理事会
- 4・21 第2回代議員会(信教常任、代議員補欠員、補充員の承認)
- 4・25 研究委員長会、研究会企画委員会
- 5・6 研究総委員会、同好会発足(須坂小)研究委員会、同好会世話係・委員長・会長会
- 5・9 上高井教育研究会三団体発足会
- 5・11 新任者歓迎教育懇談会(迎賓館)
- 5・13 研究推進委員会①
- 5・20 総会前日準備
- 5・21 上高井教育会通常総会・講演会
- 5・21 ○平成22年度会務報告、決算の承認
- 5・21 ○平成23年度事業計画、予算の承認
- 5・21 ○会員意見発表
- 5・21 発表者 高山中 北澤佳一 教諭
- 5・21 表題「イオン概念を獲得するための学習展開の構成と教材開発」
- 5・21 ○講演 講師 伏木久始先生(信大准教授)
- 5・21 演題「子どもと共に創る授業」をあらためて考える
- 5・28 第125回信濃教育会定期総会(飯田市信州教育の創造、未来を拓く、職能の向上)
- 6・8 第3回理事会
- 6・10 第3回代議員会、同好会②
- 6・24 研究推進委員会②
- 7・8 教育七団体結成会
- 7・9 同好会③
- 7・20 上高井教育会会報第214号発行

# 『研究の不易なるもの』

研究委員会会長 堀込明紀



指導案の書き方が簡略化して、抽出生とか

対象生を決め、具体的な指導や予想される子どもの姿を書かなくなつて久しい。私が上高井にお世話になった三十代、小委員として郡研究に携わった頃「子どもが自らとか主体的に」と枕詞のように研究テーマに書かれた。そんな中、対象生に対して、教師の出や手だてをどうするか、授業での予想される姿を思い、夜遅くまで授業者と共に考え合った。

さて、二十五年以上たって…四年間、益地憲一先生にご指導いただいた「確かな学力を育む授業の創造」を一区切りとして、本年度から、伏木久始先生を中心講師としてお迎えし「子どもと共に創る授業」を研究テーマに研究を進めることとなった。

上高井教育会講演会の中で伏木先生は「子どもと共に創る授業」の究極的な目的は『子どもが主体的に自分の力で学べるようにするために…』と述べ



指 導 案  
の 書 き 方  
が 簡 略 化  
し て、 抽  
出 生 と か  
ら れ た。 そ の 目 的 を 実 現 す る た  
め に 欠 か せ ない 三 つ の 要 件 を  
一、子ども一人ひとりの学習意  
欲や理解の仕方を把握する  
二、他者との考えの違いを調整  
する学びの場作りをする  
三、学習の課題を自分事のでき  
るような手だてを考える  
と 据 え ら れ た。

また、「共に創る」ためのベ  
ースを『子どもは何を学んだか、  
何を受け取ったと感じている  
かと言ふ視点に立ち返って指  
導法を点検してみること』と述  
べられている。

研究のテーマや方法がかわっ  
ても不易なるものはいつ何時  
も『学習者の主体的な授業』の  
追求であると思う。各委員会  
で、確かな学力の育成を目指し、子  
どもと共に授業力向上につな  
がる実践的な研究を進めてほ  
しいと願っている。(高甫小)

本校の中核活動

**“須坂支援学校です”“こんにちは”**

— 須坂支援学校 —

須坂支援学校は、昨年度開設された長野養護学校小学部須坂分校となりました。地域の皆様のご理解と切なる願い、そして須坂市教育委員会をはじめとする教育行政に携わる方々の熱意の賜と認識し、本校の教育実践への期待の大きさを感じております。

「須坂小学校との共生・共有の推進」「生涯にわたる一貫した支援を図るための家庭や地域との連携」等がその柱に据えられました。

本校は、須坂小学校の南校舎の一部を教室・職員室として、その他校舎内には本校の学習活動にも利用している施設もあり、須坂小学校との併設という形です。そのため須坂小学校の子どもたちと本校の子どもたちは日常的にふれあい、活動や行事を共にしている場面が多々あります。



また、本校の子どもたちは全員が上高井地域からの通学生で、居住地の学校から比較的近いので、保護者の希望や本人のニーズに応じて、居住地校との交流及び共同学習も大切に考えております。

開校直後の四月は、「前庭であそぼう」「春だ、おさんぽに出かけよう」と題した単元で校内探検や学校周辺地域の探索をしました。本単元の学習を繰り返す中で、子どもたちは学校周辺の春の様子を感じながら、友だちや担任と一緒に安全

に歩くこと、遠足の目的地である臥竜公園への行程などを学んでいきました。

五月の連休明けからは「あいさつ名人になろう」をテーマに、近隣の公共施設、学校、福祉施設などへ、開校式や学習の様子を紹介する地域向け通信を配り、あいさつをして回りました。子どもたちは、

「ささかしえんがっこう」  
「こんにちは」  
「今年から学校のなまえがかわりました」  
「おたよりをよんでください」  
「よろしくおねがいします」  
「ありがとございます」

などのセリフを、分担して独りで言ったりみんなで声を合わせたりして、新しい学校の開校をアピールしました。

これらの活動を通して、子どもたちは学校周辺のことを知り、地域の方々には学校の存在やそこで学ぶ子どもたちのことを少し覚えていただけかと思えます。

初年度の学校教育目標は「地域でたくましく生き抜くことのできる心豊かな子ども」：明るい心・元気な体…です。本校で学ぶ子どもたちが、この地域で心豊かに生活するための支援の一つとして、学校での活動を地域の方々に情報発信したり、子どもたちともに地域に出て活動したりしていきたいと思えます。(高山和浩)

# 同好のつながりを

同好会会長 山岸周一



高井同好会も、現在は十七に発展し、研究委員会と両輪となり、我々の生涯学習を構築させていくことに、大きな意味、そして役割を果たしています。

同好会の目的は、同好の者が集まり、一つのことを主体的に、

昭和二十八年に八つの同好会で発足した上、継続的に自己研鑽することによって、教員としての資質の向上や人間的な幅をさらに広げることにあります。研鑽は、最終的には目の前の子どもたち、地域に、そして自分にかえってくるものであり、その価値の大きさははかり知れませんが、今年度も昨年度同様に、夏休みの開催も予定されています。それぞれのニーズにあった、

様々な形、様々な発想があってもよいものと思われれます。一人でも多くの方々のご参加をお願いしたいと思います。

なかなか時間的に厳しい昨今ですが、みんなでもやり、互いを高め合うエネルギーは、誰もが求めているものではないでしょうか。せっかくの機会を活用され、各校種や職場・年代の枠をこえ、個々の課題に迫ったり、同好のつながりを大切にされたり、人生の楽しみへの創造につながる事ができればと思われれます。よろしくお願いたします。(旭ヶ丘小)

## コンピュータ同好会の活動

コンピュータ同好会長 竹前和智

コンピュータ同好会では、上高井の先生方のコンピュータのスキル向上を目指して活動を行っています。特に夏休みに行われる夏期講習会に力を入れており、「校務に生かせる研修を」ということで、ここ数年間はマイクロソフトオフィスの研修を中心に行ってきました。また、一昨年度からはウィンドウズ7についての研修も行うようになりまし。ウィンドウズ7の普及が進み、店頭で販売されているパソコンの多くがウイ

ンドウズ7搭載機になっていることや、学校現場への導入もかなり進んでおり、今後校務で利用したり児童に指導したりするケースが多くなる事が予想されます。昨年度の夏期講習会では「使ってみよう！ウィンドウズ7とオフィス2010」と題して研修会を行いました。研修会ではウィンドウズ7についての最新トピックス・オフィスの学習や実際に操作をしてみ

る実習を行いました。

今年度も夏休みに研修会を行いますので、同好会員の先生方のみならず、多くの先生方のご参加をお待ちしております。(日滝小)



## 本校の宝(58) 高山小学校

### 「黙想タイム」に

本校では、学校目標「ひとりだち ともそだち」の具現をめざして、三つの重点目標を設け、日々取り組んでいます。その中でも特に力を入れ、特色のある子ども自身の活動として位置づけているのが、「自分を見つめる子どもを育てる」です。「自分を見つめる子ども」とは、「自分のもつ良さに気づき、自信を持って生活することができると子ども」と捉え、その発展として「共に支えあいながら育つ」ことを願って設定しているものです。

この黙想タイムは、児童達が流れている間、児童達はそれぞれ自分の清掃場所に黙って座り黙想を開始します。各教室内や廊下、階段、校庭の一隅など、校舎内外の各地で、一言も会話が聞こえなくなり「シーン！」となる時間です。

では毎日清掃開始にあたり、自分の清掃場所に移るための音楽が流れます。その後、続けて二分間別の曲が流れます。この曲が流れている時間を「黙想タイム」と呼び、全校でとても大切にして



本校では毎日清掃開始にあたり、自分の清掃場所に移るための音楽が流れます。その後、続けて二分間別の曲が流れます。この曲が流れている時間を「黙想タイム」と呼び、全校でとても大切にして

(山岸信之)

# 義談涼清

カット 井上小 山岸深志



## 「鼓笛の伝統」

田中敬士

六月二十四日、校内音楽会が行われ、六年生は吹奏楽「宇宙戦艦ヤマト」を演奏した。本校では、六年生は全員鼓笛に参加する。

朝練習は一週間のうち、火曜日、木曜日、金曜日の三日間、委員会などの活動がある場合は、楽器を用意しておいて当番活動が終わってから練習に参加する。

昨年度六年生から引き継いだのは十二月だった。それから半年たった。

残念ながら、学年担任は楽器を鳴らせない。金管の音を出すのでさえ並大抵にできることではない。音楽の先生には毎年大変お世話になる。

また、それ以上に前年の六年生には大変助けられる。引き継ぎの時には楽器を譲

り受けるのだが、それと同時に音の出し方や姿勢、手入れの仕方をそこで教わる。



そして、週三回の練習、引き継ぎ後の見守りが当たり前のように行われているのが伝統の力だろう。

そして、今年も音楽会の最後は鼓笛の演奏で拍手をたくさんいただいた。これもまた伝統だった。(須坂小)

## エンカウンターで仲間づくり

増田智子

一年から二年へクラス替えがあり、五月半ばあたりから、徐々に人間関係に悩む生徒が出てきました。六月は、前期人権同和教育月間でした。テーマは「友好く信頼できる仲間をつくらう」です。私の学級では、エンカウンターの活動を取

り入れながら学習を進めました。

はじめは、ベースドレーン、猛獣狩りに行こう、木とりずを行いました。中学二年生なので、照れがありますが、体を動かして、男女がまざって活動できるように配慮しました。最初は、動きが固い生徒達でしたが、しだいに表情も動きもほぐれていきました。次の時間には、新聞タワーを行いました。この活動は五・六人のグループで、新聞紙だけを使ってタワーをつくるというものです。「みんなで力を合



わけてできたし、あまり話したこともない人と話させて楽しくなった」

という感想がありました。エンカウンターを行う時に注意している点は、教師側で気負わず、どんどん取り組むこと、

また生徒から出た感想をみんなでも共有することです。これらの課題としては、仲間づくりを進めながら、自己肯定感を高めるような学習を考えていきたいと思っています。(墨坂中)

## 編集後記

平成二十三年度、会報二二四号を発行し、無事会員各位にお配りすることができました。お忙しい中、玉稿をお寄せいただいた先生方に心より感謝申し上げます。

今年度も「読みたくなる会報」を目指して、編集委員会一同取り組んで参ります。会員の皆様に目を通していただき、誌

面でもよかったところ、改善点などがありましたら、率直にご意見いただければ幸いです。何かありましたら、各委員までご連絡ください。

- 委員長 山岸 周一(旭ヶ丘小)
- 副委員長 児玉 明代(豊丘小)
- 委員 原 朋野(栗方丘小)
- 中村 竜太(井上小)
- 堀田 幸雄(高甫小)
- 宮崎 尚子(小山小)
- 伊藤 浩(常盤中)
- 島田 剛(相森中)

平成23年度 県外視察者名簿 (敬称略)					
	学校名	氏名	視察目的	視察方面	実施時期
1	栗ガ丘小	鶴田 恵市	外国語活動実施1年目の全国の様子	京都市	1月
2	高山小	鈴木佐代子	私立における英語教育	東京方面	10月下旬
3	小山小	本山久美子	健常児と自閉症児の混合教育	東京	6,7月頃
4	日野小	小林 稔	体育学習について	新潟か名古屋	未定
5	日野小	塚田 研	未定	関東方面	未定
6	高甫小	駒村 京子	音楽教育の充実を目指して	北海道	11月
7	豊丘小	山岸 俊樹	算数学習について(新CSの進め方)	東京	8月9・10日
8	小布施中	木谷 香月	技術の授業におけるロボット製作の取り組み	福島県	7月
9	相森中	小林里美	教材研究	東京都	11月頃
10	相森中	内田健太郎	他県中学美術の視察(鑑賞と表現の授業実践)	東京	10月頃
11	相森中	飯泉大輔	第44回全国中学校社会教育研究大会参加	東京	10月下旬
12	相森中	月岡 英明	「今、被災地のためにできること」被災地の現状、欲していることを探る	福島県	夏休み中または前
13	相森中	田中 潔	全国情緒障害教育研究協議会参加	東京	7月28・29日
14	墨坂中	赤羽美和子	一人一人が自ら拓く技術・家庭科学習	東京	11月10・11日
15	墨坂中	酒井 文子	思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価の在り方について	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校	2月